令和元年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第３号
（６月の発生予想）

令和元年　６月　３日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【水稲】

葉いもち	量：やや少ない 程度：少発生 時期：並	①　現在、苗いもちや葉いもちの発生は未確認で、平年並。（±） ②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
	※【防除上の留意事項】 補植用置苗は早急に除去する。	
ニカメイチュウ 第１世代	量：並 程度：少発生 （被害株率 1～29%） 時期：並	①　越冬前の刈株の被害発生量は新潟地域が平年比多く、他は平年並～やや少ない。（±～＋） ②　越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺は平坦部で５月第２～３半旬頃から始まり、発生時期、発生量とも平年並。（±） ③　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
ツマグロヨコバイ	量：並 （佐渡では多） 程度：少発生	①　４月下旬の越冬虫のすくい取り調査の確認虫数は佐渡では多、他地域では並～やや少（±） ②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
イネドロオイムシ	量：やや多い 時期：やや早い （幼虫ふ化盛期平坦部６月第２半旬頃）	①　５月下旬の成虫寄生数は新潟地域を中心に平年比多い。（＋） ②　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
イネミズゾウムシ	量：並 時期：やや早い （成虫水田侵入盛期 ６月第１半旬）	①　５月下旬の成虫寄生数、被害度とも平年比やや少ない。（－） ②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）

【大豆】

ネキリムシ類	量：並 時期：並	①　５月第５半旬までのフェロモントラップへの誘殺数はタマナヤガが平年比やや少ない、カブラヤガは平年比多い。（±） ②　発生時期は、フェロモントラップにおける誘殺消長から平年並と推定される。

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【なし】

黒斑病	量：並～やや少ない 程度：少発生 （発病葉率１～５%）	①　５月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
黒星病	量：多い～やや多い 程度：少発生 （発病葉率１～５%）	①　５月下旬の発生量は平年比多く、葉や果実への二次感染が認められている。（＋） ②　向こう１か月の気温は平年比高く（－）、降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
	【防除上の注意事項】 ①　効果的に防除するためには二次伝染源の除去が重要であり、発病した葉、果実は見つけ次第除去して土中深く埋める等、適切に処分する。 ②　防除効果を高めるため、薬剤散布は発病部位を除去した後に行う。 ③　耐性菌の増加を抑制するため、同一系統薬剤の連用は避け、作用機構の異なる剤を交互使用する。 ④　発生状況等の詳細は、病害虫発生予察速報第３号（ナシ黒星病の発生状況と防除対策）を参照する。	
セイヨウナシ 褐色斑点病	量：やや少ない 程度：少発生 （発病葉率１～５%）	①　５月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－） ②　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
	【防除上の注意事項】 ①　発病した葉、果実、枝は剪除し、土中深く埋める等適切に処分する。 ②　例年６月下旬頃から発病葉が急増するので、防除間隔が開きすぎないよう注意するとともに、天気予報に留意し、降雨前散布を徹底する。 ③　果実感染を抑制するため、袋かけは遅くとも６月上旬までに完了させる。	
ナシヒメシンクイ	量：多い 程度：少発生 時期：並 （第１世代成虫の発蛾盛期は６月第４半旬頃）	①　５月下旬現在、越冬世代成虫のフェロモントラップでの累積誘殺数は平年比多い。（＋） ②　第１世代成虫の発生時期は、越冬世代成虫の誘殺盛期と有効積算温度から平年並と推察される。 ③ 向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
	【防除上の注意事項】 第２世代幼虫の防除時期は、第１世代成虫誘殺盛期の７～９日後である。	
ハマキムシ類	量：並 程度：少発生 （寄生葉率１～15%） 時期：並 （越冬世代成虫の発蛾盛期は５月第６半旬頃）	①　５月上旬の被害果葉そうの発生量は平年並。（±） ②　越冬世代成虫の発蛾盛期は、有効積算温度から平年並と推察される。 ③　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
	【防除上の注意事項】 第１世代幼虫の防除時期は、越冬世代成虫誘殺盛期の概ね２０日後である。	

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【なし】つづき

アブラムシ類	量：多い 程度：中発生 （寄生葉率６～15%）	①　５月下旬の発生量は平年比多い。（＋） ②　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～＋）
	【防除上の留意事項】 ①　ワタアブラムシの寄生が多く認められるため、新梢先端部位をよく観察し発生を確認したら早期に防除を行う。 ②　ワタアブラムシは抵抗性が発達しやすいので、作用機構の異なる薬剤を交互に使用する。	
ハダニ類	量：並～やや多い 程度：少発生 （寄生葉率１～15%）	①　５月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温は平年比高く（＋）、降水量は平年並か少ない（±～＋）と予想されている。
	【防除上の留意事項】 ①　ハダニ類は発生が多くなると防除が困難となるため、園内をよく観察し、発生初期に防除を行う。 ②　ハダニ類は抵抗性が発達しやすいので、作用機構の異なる薬剤を交互に使用する。	
ニセナシサビダニ	量：並～やや多い 時期：並	①　５月下旬の発生量（被害葉）は平年並。（±） ②　５月上旬から新梢に被害葉（モザイク症状）が確認され、発生時期は近年並。 ③　向こう１か月の気温は平年比高く（＋）、降水量は平年並か少ない（±～＋）と予想されている。
	防除上の留意事項】 ①　越冬する第２雌が出現する６月中～下旬に防除を行い、越冬量を減らす。 ②　若い葉を好んで加害するため、徒長枝の先端部まで薬剤が十分かかるよう留意する。また、園地周縁部などの薬液のかかりにくい場所は補正散布を行う。	
果樹カメムシ類	量：並 程度：少発生 （被害果率１～2%） 時期：やや早い	①　５月下旬の被害果の発生は未確認で平年並。（±） ②　越冬世代成虫の予察灯での誘殺は５月第４半旬から認められ、飛来時期は平年比やや早かった。 ③　５月下旬現在の予察灯での誘殺数は平年並。（±） ④　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
	防除上の留意事項】 ①　夜温の上昇に伴い活動が盛んになり、園地へも飛来が増加するので注意する。園地内でカメムシ類を確認した場合には、活動が鈍い早朝に防除を行う。 ②　カメムシ類は局地的に飛来し、集中的に加害する傾向がある。山林や雑木に隣接する園地や過去に被害を受けた園地では特に注意する。 ③　果実への袋かけはカメムシ対策として有効であるため、作業が遅れないように実施する。	

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【もも】

せん孔細菌病	量：やや多い 程度：中発生 （発病葉率 11～30%）	①　伝染源となる発病枝（春型枝病斑）の確認地点率は高く、中発生園地も認められる。（＋） ②　５月下旬の発生量（発病葉）は、平年比やや多い。（＋） ③　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
	【防除上の留意事項】 ①　罹病枝（春型枝病斑）は周辺の発病葉とともにせん除し、ほ場外に搬出し処分する。 ②　果実感染を抑制するため、早期の袋かけに努める。 ③　防風ネットの設置・補修等防風対策を実施する。 ④　耐性菌の増加を抑制するため、同一系統薬剤の連用は避け、作用機構の異なる剤を交互使用する。 ⑤　発生状況等の詳細は、病害虫発生予察速報第２号（モモせん孔細菌病の発生状況と防除対策）を参照する。	
灰星病	量：並 程度：少発生	①　５月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
モモハモグリガ	量：並 程度：少発生 （被害葉率１～15%） 時期：並 （第１世代成虫の発蛾盛期は５月第６～６月第１半旬）	①　５月下旬の発生量（被害葉）は平年比やや少ない。（―） ②　第１世代成虫の発生時期は、越冬世代成虫の誘殺盛期と有効積算温度から平年並と推察される。 ③　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 ①　第２世代幼虫の防除時期は、第１世代成虫の誘殺盛期の約１０日後である。 ②　７月以降は世代が入り混じって防除効果があがらない場合が多いので、第２世代幼虫の防除を徹底する。	
ナシヒメシンクイ	量：やや多い 程度：少発生 時期：並 （第１世代成虫の発蛾盛期は６月第４半旬頃）	①　５月下旬の新梢被害枝の発生は未確認で平年並。（±） ②　５月下旬現在、越冬世代成虫のフェロモントラップの誘殺数は平年比多い。（＋） ③　第１世代成虫の発生時期は、越冬世代成虫の誘殺盛期と有効積算温度から、平年並と推察される。 ④　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 ①　第２世代幼虫の防除時期は、第１世代成虫の誘殺盛期の７～９日後である。 ②　心折れを見つけた場合は、直ちにその部位を剪除し、虫の密度を低くする。 ③　新梢伸長期は心折れの発生防止に重点をおいて、定期的に薬剤防除を行う。	

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【もも】つづき

果樹カメムシ類	量：並 程度：少発生 （被害果率１～２%） 時期：やや早い	①　５月下旬の被害果の発生は未確認で平年並。（±） ②　越冬世代成虫の予察灯での誘殺は５月第４半旬から認められ、飛来時期は平年比やや早かった。 ③　５月下旬現在の予察灯での誘殺数は平年並。（±） ④　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 「なし」の項を参照する。	

【ぶどう】

灰色かび病	量：並 程度：少発生 （発病果房率１～10%）	①　５月下旬の発病果房の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温は平年比高く（－）、降水量は平年並か少ない（±～－）と予想されている。
	【防除上の留意事項】 ①　発病花穂、葉は早めに取り除き処分する。 ②　薬剤散布は落弁期までに実施する。ただし、耐性菌の増加を抑制するため、同一系統薬剤の連続使用は避け、作用機構の異なる薬剤を交互使用する。	
フタテンヒメヨコバイ	量：並 程度：少発生 （被害葉率１～25%）	①　５月下旬の発生は未確認で平年並。（±） ②　向こう１か月の気温は平年比高く（＋）、降水量は平年並か少ない（±～－）と予想されている。

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【かき】

円星落葉病	感染量：やや多い 感染時期：早い （胞子飛散盛期は６月第１半旬）	①　前年の発生量は平年比多く、越冬伝染源量も多いと推察される。（＋） ②　胞子飛散盛期は６月第１半旬頃で平年比早いと予想される。 ③　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
カキクダアザミウマ	量：やや多い	①　前年の発生量は平年並であった（±） ②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
ハマキムシ類	量：やや多い	①　５月第１半旬～第５半旬までのフェロモントラップ累積誘殺数はチャハマキは平年比やや少なく（－）、チャノコカクモンハマキは平年並（±）。 ②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
フジコナカイガラムシ	量：並 時期：遅い （第１世代幼虫ふ化盛期：６月第６半旬頃）	①　前年の発生量は平年並で越冬幼虫量も平年並と推察される。（±） ②　フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺盛期と有効積算温度から推定される第１世代幼虫の発生時期は平年比遅い。 ③　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
	【防除上の留意事項】 ①　越冬世代成虫の誘殺盛期を起点に有効積算温度で推定される第１世代幼虫の防除時期は、６月第６半旬～７月第２半旬である。 ②　越冬世代成虫の産卵時期に幅があり、第１世代幼虫のふ化期間は長引きやすいので、例年被害が多い園地では 10 日程度の間隔で複数回防除する。 ③　今後の気象経過によっては、幼虫ふ化盛期が早まる可能性があるので注意する。	

【冬春トマト（施設）】

灰色かび病	量：並～やや少ない 程度：少発生 （果実発病度１～20%）	①　５月下旬の発生量は、葉、果実ともに平年比やや少ない。（－） ②　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
葉かび病	量：並～やや少ない 程度：少発生 （発病度１～20%）	①　５月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－） ②　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
アザミウマ類	量：やや多い 程度：少発生 （寄生花率１～10%）	①　５月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
コナジラミ類	量：並 程度：少発生 (寄生株率１～25%)	①　５月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－） ②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【すいか】

つる枯病	量：やや少ない 程度：少発生	①　５月下旬の発生量は平年比少ない。（－） ②　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
炭疽病	量：やや少ない 程度：少発生	①　５月下旬の発生量は平年比少ない。（－） ②　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
アブラムシ類	量：並 程度：少発生	①　５月下旬の発生は平年比少ない。（－） ②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（＋）
オオタバコガ	量：並 程度：少発生	①　５月中旬以降、花の食害が認められている。被害の発生は平年並。（±） ②　フェロモントラップ総誘殺数は平年並～やや少ない。（±～－） ③　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（＋）

【秋冬ねぎ】

べと病	量：並～やや少ない 程度：少発生 （発病株率１～10%）	①　夏ねぎでの５月下旬の発生は平年比少ない。（±） ②　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
さび病	量：並～やや少ない 程度：少発生 （発病度１～５）	①　夏ねぎでの５月下旬の発生は平年比少ない。（±） ②　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
ネギハモグリバエ	量：並 程度：少発生 （被害度１～10） 時期：並	①　夏ねぎでの５月下旬の発生は未確認。（±） ②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（＋）
ネギアザミウマ	量：やや多い 程度：中発生 （被害度 11～20） 時期：やや早い	①　夏ねぎでの５月下旬の被害は中～甚発生が確認された。（＋） ②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（＋）

【ユリ(球根養成)】

葉枯病	量：並	①　５月下旬の発生は未確認で、平年並。（±） ②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
アブラムシ類	量：並	①　５月下旬の発生は、ハウス作型で稀に認められる程度で平年並。（±） ②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（＋）

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠

【その他】

【アブラナ科野菜】 コナガ	量：並	① フェロモントラップ誘殺数は平年並～やや少ない。（±～－） ② 向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（＋）
【野菜全般】 タネバエ	量：並	① トラップの誘殺数は平年、前年に比べ少ない。（－） ② 向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
【野菜・花き全般】 オオタバコガ	量：並	① すいかの項を参照。
	※【防除上の留意事項】 ほ場をよく見回って発生状況を確認し、幼虫の発生が認められたら、作物に食入する前に防除対策を講じる。	

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください ～

注１：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の５段階で表記しています。
②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。
注２：「予報の根拠」の（＋）は、発生量を増加させる要因、（－）は発生量を減少させる要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

【新潟県農薬危被害防止運動実施期間：６月１日～８月 31 日】

○ 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
○ 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
○ 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
○ 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
○ 水田で湛水して農薬を散布する場合は、７日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

新潟県病害虫防除所業務課
電 話：0258-35-0867
ＦＡＸ：0258-35-7445
ＵＲＬ：www.pref.niigata.lg.jp/bojo

【参考】北陸地方　１か月予報（６月　１日から６月２８日までの天候見通し）

（新潟地方気象台：令和元年５月３０日発表）

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

＜予想される向こう１か月の天候＞

向こう１か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう１か月の平均気温は、高い確率７０％です。

降水量は、平年並または少ない確率ともに４０％です。

日照時間は、平年並または多い確率ともに４０％です。

週別の気温は、１週目は、高い確率８０％です。

２週目は、高い確率６０％です。

３～４週目は、平年並または高い確率ともに４０％です。

＜向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気　　温	１０	２０	７０
降 水 量	４０	４０	２０
日照時間	２０	４０	４０

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
１週目（６月　１日～６月　７日）	１０	１０	８０
２週目（６月　８日～６月１４日）	１０	３０	６０
３～４週目（６月１５日～６月２８日）	２０	４０	４０